

「第6回恋人の聖地・内灘ロマンチックウォーク」医師・看護師とみんなで歩こう」（北國新聞社など後援）は24日、内灘町役場を発着点にした3コースで行われた。町内外から参加した約700人が、医師や看護師から健康づくりの知識について学びながら散策し、日本海や新緑の河北潟干拓地の眺望を楽しんだ。

医師らと健康維持

参加者は12キロの「まるごと」、8キロの「アカシア」、4キロの「ふれあい」の3コースに分かれ、金沢医科大学病院の医師や看護師とともに、林帯遊歩道や内灘大橋、能登海浜自転車道などを歩いた。今年の内灘高の生徒約250人が運営に協力し、ウォーキングに参加した。山崎潔津幡署長と署員は反射材の着用推進などをPRするTシャツを身に着

海と新緑眺め 700人内灘歩く



内灘大橋を歩く参加者

内灘町大根布

け、交通安全と防犯を呼び掛けながら4キロを歩いた。町役場町民ホールでは、同大の「ふれあい健康フェア」が開かれ、学生や医師らが参加者の骨密度や体脂肪を測定し、健康相談を受け付けた。町健康づくり推進委員会による野菜クイズコーナーも設置された。開会式では、七田総町ウォーキング協会長の開会宣言に続き、川口克則町長、中農理博同大副理事長があいさつした。中農副理事長は「ふれあい」コースに参加した。テレビ金沢、北陸放送も後援した。